

2014年度卒業式・学位記授与式



新たな道へ 希望胸に

4285人 決意の日

日一日と暖かさを増し、穏やかな春の陽気に包まれた3月22日、2014年度の専修大学卒業式・学位記授与式が東京・千代田区の日本武道館で行われた。

晴れの日を迎えたのは、学部卒業生、大学院修了生、専門職大学院(法科大学院)修了生あわせて4285人。ご父母・保護者や後輩たちに祝福され、キャンパスでの思い出と新生活への希望を胸に社会へと旅立った。

各総代に学位記、川島記念賞が贈られたあと、矢野建一学長が式辞で、「困難や試練に直面したときに、はじめてその人の価値、本当の強さが分かる。本学での学びはその資質を培ってきたはずだ」と激励した。

日高義博理事長、甘竹秀雄校友会長、卒業10年目の先輩、平田京美さん(平17経済)の祝辞のあと、卒業生・修了生を代表して渡邊まりのさん(文学部)が「専修大学で過ごしたかけがえのない4年間を忘れない。チャレンジ精神を持って道を歩んでいきます」と感謝の気持ちと決意を語った。(5面に写真特集)

▲ 式場を後にする卒業生
|| 日本武道館清水門で

一三ース専修

専修大学 ホームページ
http://www.senshu-u.ac.jp/

毎月1回15日発行
(定価一部90円)
発行所
専修大学広報課
〒101-8425
東京都千代田区
神田神保町3-8
☎03-3265-5819(直)

主なニュース

- 2 学部長、大学院研究科長、法科大学院長の「贈る言葉」
- 3 川島記念学術賞・体育賞・奨励賞受賞者
- 4 定年退職される先生方/メッセージ
- 6 卒業生・修了生が振り返る専大の思い出
- 7 法・広渡教授にドイツ一等功労十字章
- 10 生田第1体育寮・生田第2体育館完成
- 12 石巻専修大学 学位記授与式/川島記念学術賞受賞者
- 14



学校をつくらう
創立者4人の青春物語
DVD絶賛販売中(購買会他)



疾風に勁草を知る

学長式辞 矢野 建一

強風に屈せずしなやかに

自信を持って生きよう



書「王覇伝のなかに「疾風に勁草を知る」という一節があります。

「疾風」とは激しく吹く風のこと、「勁草」はこうした強風に屈しないしなやかな草木のことです。すなわち、困難に遭遇し、はじめてその人間の本当の価値、本当の強さがわかるという意味です。

卒業生の皆さんは、4年間の学びのなかで確実に「勁草」としての資質を培っているはず。本学での学びに自信をもって雄々しく飛翔されることを祈念し、第16代学長の式辞といたします。(要旨)

チャレンジ精神忘れず歩む

謝辞 卒業生総代 渡邊まりの



4年前、入学式を前に東日本大震災が発生しました。私は自宅で倒れそうになる部屋の棚を必死に押さえながら、尋常の地震では無いことを悟りました。震源地から遠く離れた場所においてさえ大きな不安に駆られました。震災のつめ跡も生々しいなかで、未来への大きな期待と不安を抱き、生田キャンパスの10号館で入学式を迎えました。言語学を研究するゼミに入り英語を研究素材として学んだ私は、3年次の米国オレゴン大学留学で言語習得の難しさを実感しました。会話の中で、個々の単語の意味は理解できても、文章全体の意味は理解できないことがあります。言語はその土地の文化と根強く結びついているもので、その文化を理解しなければ言語を理解したとは言えません。英語圏の文化と結び付けます。(要旨)

専修大学は明治13(1880)年、アメリカに留学した相馬永胤、田尻稻次郎、目賀田種太郎、駒井重格らによって創立され、2019年には創立140年を迎えます。こうした専修大学の歴史は、決して平穏な時代ばかりではありません

でした。何より、東日本大震災の惨禍を忘れることはできません。しかしそれは、我々に得がたい教訓を残してくれたように思います。困難に立ち向かう姿勢とでもいふべきものです。

専修大学の卒業生は、およそ26万人といわれていますが、バブル崩壊、リーマンショック、大震災などの厳しい試練を経験しながらも、日本企業の海外

進出の尖兵として、国や地方公共団体・企業のリーダーとして、さまざまな面で目覚ましい活躍を見せています。こうした卒業生は「地味で派手さこそないものの、誠実で粘り強い」と評されています。この地味さは決してネガティブなものではなく、私は本学の誇るべき学風のひとつではないかと思っています。

古代中国の『後漢

大学生活を支えてくださった先生方、職員の方々、地域の皆様、共に学び多くの時間を共有した友人、先輩、後輩、そして何よりも家族に感謝するともに、卒業後も変わらずご指導くださいますようお願い申し上げます。(要旨)